



第3号

財団法人 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
 〒105-0001 港区虎ノ門3-6-8 第6森ビル5階
 電話 03 (5405) 1838
 F A X 03 (5405) 1839
 http://homepage2.nifty.com/ireikyuo
 振替口座 00140-6-334930
 編集人兼発行人 小田原 健児

三笠宮殿下御臨席の下

大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会 創立一周年記念全戦没者合同慰霊祭

大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会は、昨年七月七日厚生労働大臣の認可を得て発足したが、本年七月、満一周年を迎えた。この創立一周年を迎えるにあたり、協議会では、在京の協議会参加団体(正会員団体)と諮り、七月九日(日)、創立一周年記念全戦没者合同慰霊祭を靖国神社において挙行した。

当協議会と共に主催団体に参加した在京の参加団体は、(財)海原会、(財)太平洋戦争戦没者慰霊協会、(財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会、(財)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会、(NPO法人)JYMA、英霊にこたえる会、海交会全国連合会、興亜観音を守る会、全国甲飛会、全ヒルマ会、予科練雄飛会、陸士57期生同生会の12団体であった。

この慰霊祭には当協議会名誉総裁三笠宮崇仁親王殿下も御臨席を賜り、皇室の戦没者慰霊に対するお心遣いの深いことをあらためて拝察申し上げる思いがした。

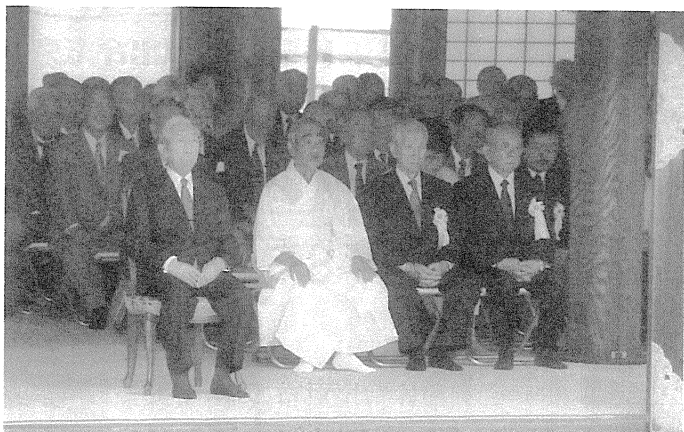
三笠宮崇仁親王殿下は、11時50分、協議会代表者のお迎え中、到着殿にお着きになられ、御小憩の後、式場に御臨場された。

式典は、12時から開始され、先ず、国歌斉唱が行われ、慰霊祭は肅々と進んだ。当日、瀬島協議会会長は体調を崩され欠席されたが、瀬島会長の心を代った祭文は新庄副会長により代読奏上された。(祭文は後記)

この慰霊祭には、世田谷区民吹奏楽団と世田谷コーロエーデン合唱団のご奉仕の協力があり、慰霊祭はより厳粛莊重な雰囲気の中で行われた。

三笠宮殿下は、式典の後、昇殿参拝を済まされて12時50分頃御退出になられた。

全戦没者合同慰霊祭に御臨席の三笠宮殿下



祭文を奉仕する新庄副会長

祭文

本日、三笠宮崇仁親王殿下御臨席の下、我等此処靖国の宮居に集ひて、創立一周年記念全戦没者合同慰霊祭を営むに当たり、大東亜戦争全戦没者の御霊に衷心より感謝と追悼の念を捧げ奉る。

大東亜戦争は我が国が求めたる戦いにはあらず自存自衛の止むを得ざる戦いにして、大東亜諸民族の独立また此の戦いの結果たること、今や歴史として異論の余地なし。

御身らはこの戦ひに、第一線に御戦人として、また銃後の戦士として国難に赴き、尊き一命を擲ち給えり。いとしき祖国の為なればこそ、また東洋平和の大使命あればこそ、一髮土に残さずも、大陸の山河に、凍る北の島に、或るは南溟に、雲と散り、波に消え、草むす屍、水漬く屍と果て給へるなり。

嗚呼、忠烈萬世に燦たり。悠久の大義の為、御身らが積み重ね給ひし幾百萬の悲しき御命を思ひ、翻りて、世道人心地に墜ちたる現下日本の姿に思ひを致す時、慚愧五内を裂く。

いま神鎮りませる御霊の前に、改めてその至誠と勲功を偲び、進みては我等またいよ励みて正しき歴史を世に広め後世に語り継ぎ、以て御身らの遺烈を顕彰し、日本の真実恢弘に微力を

盡さんことを誓ひ奉るものなり。
 平成十八年七月九日
 財団法人
 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
 会長 瀬島 龍三

東京のお盆と戦没者慰霊行事

東京のお盆は新暦の7月に行われる。この東京のお盆に合わせて靖国神社や千鳥ヶ淵戦没者墓苑では戦没者慰霊・供養の諸行事が続いた。

靖国神社では、7月13日から16日にかけて「みたま祭り」が催行され、境内は大変な賑わいとなった。境内の参道両側には2万6千を数える個人・団体からの献灯が掲げられ、この期間内に神輿振り、盆踊り大会、奉納芸能等多彩な行事が繰り広げられ、出店が並び境内一面が期間中賑わった。

また、千鳥ヶ淵戦没者墓苑では、13日夕刻には地元千代田区が戦没者慰霊祭を執り行い、慰霊式典に続いて墓苑横の千鳥ヶ淵で千代田区観光協会と共催の灯籠流しを行って御霊の御平安をお祈りしていた。14日には妙智會教団による各教区毎の戦没者慰霊参拝が行われ、翌15日には阿含宗の皆さんによって戦没者孟蘭盆万灯供養法要が催行されて、千鳥ヶ淵戦没者墓苑も静かな中に心を込めた慰霊行事が続けられていた。

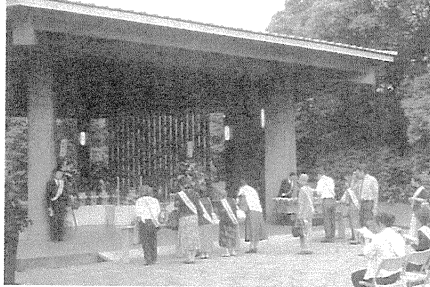


靖国神社みたままつり

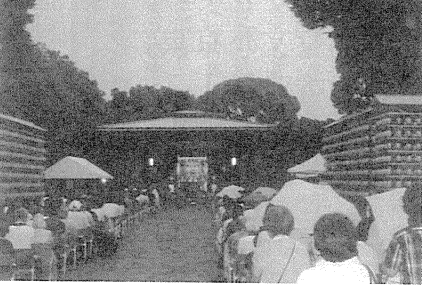
東京のお盆に合わせ戦没者墓苑各団体慰霊行事



千代田区主催戦没者慰霊祭



妙智會教団の千鳥ヶ淵戦没者墓苑参拝



阿含宗の戦没者孟蘭盆法要

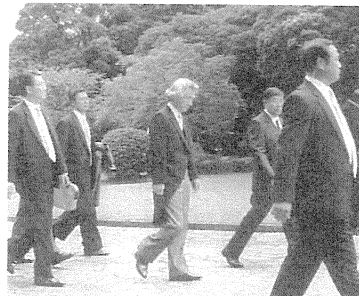
終戦記念日を迎え小泉首相は靖国神社参拝

各所で戦没者慰霊行事

今年の8月15日、東京地域は小雨模様の日となったが、小泉首相はこの日早朝、かねてから話題となっていた靖国神社参拝を果たし、議論沸騰の終戦記念日となった。

この日、千代田区北の丸の武道館では、天皇皇后両陛下の御臨席を頂き政府主催「全国戦没者追悼式」が執り行われたが、武道館近くの靖国神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑でもそれぞれ民間団体による慰霊行事が続いていた。

靖国神社においては、英霊にこたえる会が主催する第31回全国戦没者慰霊大祭が催行され、引き続き同会及び日本会議共催の第20回中央国民集会在催されたが、早朝に小泉首相の参拝もあつてか神社の内外は騒然とした雰囲気にも包まれていた。



千鳥ヶ淵戦没者墓苑で献花する小泉首相

一方、千鳥ヶ淵戦没者墓苑では、早朝から、日蓮宗主催の追善供養祭が執り行われ、その後、平和フォーラムによる追悼式、日本会主催の追悼式が続き、戦没者を追悼し、平和を祈念する各種の行事が執り行われた。この間11時30分頃小泉首相も武道館の全国戦没者追悼式参列に先立って戦没者墓苑を参拝し献花した。

また、靖国神社も千鳥ヶ淵戦没者墓苑も1月遅れのお盆と言ふこともあり、参拝する一般参拝者の人波が続き、それぞれの境内は大変な混雑となった。

全国甲飛会の

第60回光の祭典

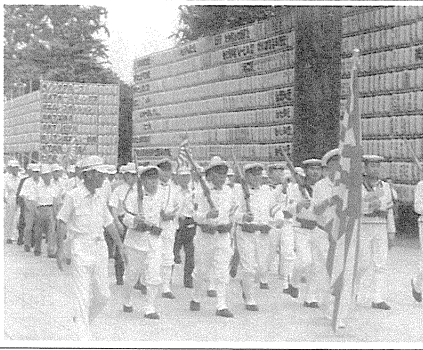
靖国神社御霊まつり開催

国の為尊い命を捧げられた英霊を永遠に、お慰めするようにとの明治天皇の恩召により、明治2年6月に、靖国神社が創建されました。

御祭神は現在2百46万6千余柱であり、大東亜戦争だけでも2百13万柱を数えます。

これら多くの御祭神をお慰めする行事として、終戦直後の昭和22年から毎年、お盆の時期に当たる7月13日から16日までの4日間、東京の夜空を美しく彩り、夏の風物詩として親しまれてきた、「みたままつり」が盛大に開催されました。

全国甲飛会軍艦旗を先頭に 境内を行進・参拝する



全国甲飛会主催のみたままつりは、7月15日(土) 11:30頃から生甲飛生が大鳥居前に、都内、関東近県はもとより静岡、愛知、長野、石川、大阪、山口、熊本からも参集して総勢約100名が参拝しました。

軍艦旗を先頭に儀仗隊(水兵服・七ツ釦・下士官服姿)6名、甲飛ラッパ隊員4名の吹奏する行進曲に合わせて、威風堂々と境内を行進して拝殿前に整列、ラッパに合わせて敬礼を捧げました。(本稿、全国甲飛会から寄稿)

大東亜戦争における 海外戦没者と遺骨収集

大東亜戦争に際しては、広範な地域で苛烈な戦闘が展開され、またその期間も長きにわたったため戦没者数も極めて多いものとなった。この戦争間の日本本土以外の各戦域(硫黄島・沖縄を含む)における戦没者は、軍人・軍属等約20万人、戦火に巻き込まれて亡くなった一般邦人約30万人、合計240万人と言われ、また内地における戦死者等70万人、この大東亜戦争戦没者合計は310万人と数えられている。

これら海外地域での戦没者は、この戦争の終結が日本にとつて敗戦と言ふ悲惨な終結であったため殆ど野晒し状況となり遺族や戦友にとつてはその遺骨の本土奉還は重大な関心事であった。

平成27年4月、対日平和条約が発効し、同年の第13回国会に於いて、衆議院では遺骨送還の国民的意向に沿って「遺骨の収集、送還に関する決議」が採択された。また、政府においては、米国防府の了解を得て、同年早々に硫黄島及び沖縄に遺骨収集団を派遣して遺骨収集の準備を進めていた。

これらの遺骨収集について、厚生省(現在は厚生労働省「援護五十年史」)で調べてみると、政府で行ってきた遺骨収集は、第1次〜第3次の計画的な遺骨収集と昭和51年以降の補完的収集に分けられる。

第1次計画における遺骨収集は昭和27年度〜33年度の間に進められた。この計画においてはアリューシャン方面、中部太平洋方面、南東方面、東南アジア地域等において国交未回復や入域困難な地域を除き概ね予定通り実施された。この計画内に予定されていたインドネシア、香港、ニューカレドニア島については、その後相手国の了承が得られたので昭和38〜42年の間に遺骨収集が行われた。この期間中の収骨数は一三三五六柱である。

第2次計画における遺骨収集は昭和

42年度〜47年度の間に進められた。この時期になると遺族・戦友の人々が肉親・戦友の慰霊巡拝する例も多くなり、また旧戦場の地域開発も進むに連れて未処理の遺骨の発見もあり、内外から情報を得られるようになった。厚生省ではこれらの諸情報を含めて第1次遺骨収集を補うよう第2次計画の遺骨収集を実施した。第2次計画による収骨数は八二六七九柱となった。

第3次計画による遺骨収集は、昭和48年〜50年度の間に進められた。政府として今まで2次にわたって遺骨収集を行ってきたが、この事業の性質上これを完結したと言ふ状態ではなかった。またたぐワム島で元日本兵横井庄一氏が発見され未帰還兵救出問題と共に遺骨収集に関する国民の関心が高まった。第3次計画においては過去の遺骨収集の結果に慎重な検討を加え予算を拡大強化された。この期間の収骨数は九三六二八柱となった。

昭和50年度をもって計画的遺骨収集は一応終了したが、昭和51年度以降は相手国の事情、地形、交通等の制約により手の届かなかった地域について補完的に収集を継続することとし、現在においても、毎年遺骨収集団を派遣し収集が続けられている。昨平成17年度においては、モンゴル、旧ソ連地域、東部ニューギニア、硫黄島に遺骨収集団が派遣され、合計357柱の御遺骨を奉還している。

このようにして今日まで海外地域から日本本土に奉還した御遺骨は復員等に際して戦友に抱かれて帰国した御遺骨を含めて約125万柱を数えるが、海外での戦没者数240万の漸く半数を超えたと言ふところである。硫黄島の戦没者数と遺骨奉還数を例にとれば、硫黄島の日本軍戦没者は約二一、〇〇〇人と考えられるが、同島からの遺骨奉還数は昨年度末で、八、五一一柱となっている。同島の遺骨収集回数は61回となっているので遺骨収集事業は我々の想像以上に困難な事業である。

協議会参加団体の紹介

②(財)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会

【団体の沿革】

(財)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会は、平成5年11月、厚生大臣から認可され発足した団体である。財団法人として歴史は比較的新しいが、この団体には、財団法人化するに至るまでに長い歴史がある。

戦後間もない頃、及川吉郎元海軍大将(昭和20年5月まで海軍軍令部総長)は、親交のあった日光山輪王寺華藏院の関口真大師と関り特攻烈士の御霊を慰霊するため平和観音会を設立した。この平和観音会の活動開始にあたり、及川元大将は、終戦時に航空総軍司令官であった河辺正三陸軍大将と相談して陸海軍それぞれ2体を譲り受けこの観音像を音羽・護国寺の忠霊塔に納めることとして、昭和27年5月5日、音羽・護国寺で開眼供養が行われた。この開眼供養には東久邇稔彦元宮殿下も御臨席となった。そしてこの会を象徴する観音像も制作して希望者に頒布した。

ところが、この観音像護持目的で結成された白蓮社が財政的に行き詰まり、護国寺に納められていた観音像は、及川・河辺両大将宅で暫時預からざるを得ない状況となった。このような状況を聞いた清水光美元海軍中将は同郷の出身で現在の世田谷山観音寺を開山していた太田陸賢氏に両大将宅にある観音像の引き取り方を打診した。陸賢和尚は、由緒ある観音像を預かることは誠に恐れ多いことと固辞されたが、関係者繰返しに要請にほだされて引き取りを承諾することとなった。このよ

うな経過で特攻平和観音像は、世田谷山観音寺本堂の聖観音の傍に遷座され、昭和28年5月5日慰霊法要がこ

太田陸賢和尚は、この後、身体安

全・商売繁盛祈願の一般参拝者と特攻戦没者の冥福をお祈りする特攻関係者が同じ本堂に集うことは好ましくないと考えるに至り特攻平和観音堂を別途建立することを決心した。そして昭和29年には移築が始まり、昭和31年5月18日、落慶法要が営まれた。この間、陸賢和尚は遷化されたが、工事は現任職賢照和尚によって完成された。

その後、昭和50年代に入り、時代の流れの中で特攻平和観音奉養会は解散やみなしと考えられる時期もあったが、関係者の努力により昭和56年、特攻隊慰霊顕彰会として再発足して、会長には竹田恒徳元宮殿下を戴いた。平成5年12月に元宮殿下が薨去され、瀬島龍三氏が後任会長に就任した。瀬島会長はこの会の永続性を図る為には会を財団法人とする必要があると強く指導し、財団法人とすることに努力を続け、平成5年11月、厚生大臣により財団法人として認可されるに至った。

【特攻平和観音と世田谷山観音寺】

(特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会編)から抜粋)

この団体の概要は次の通りである。

【団体の目的・主要事業】

一、団体の目的(寄附行為第3条)

先の大戦において亡くなられた特攻隊戦没者を慰霊するとともに、先の大戦において多くの尊い犠牲が払われたことの一つの象徴である特攻隊の史実を伝えることを通して、日本国民に恒久平和の実現を祈念する心を涵養することを目的とする。

二、主要事業(寄附行為第4条)

1 先の大戦における特攻隊戦没者の慰霊

2 特攻隊、特攻隊戦没者等に関する資料及び情報の収集並びに調査研究

3 恒久平和に関する講演会、展示会等の開催

4 機関紙その他出版物の刊行

5 その他前条の目的を達成するために必要な事業

【組織の概要】

会長 山本 卓眞

副会長 石野 清治

理事長 菅原 道照

常務理事 1名

理事 6名以上10名以内

監事 2名以上

評議員 15名以上20名以内

【事務所】

東京都港区虎ノ門三六一八 第6森ビル5階

電話〇三三三四三三三〇九〇

FAX〇三三三四三三三二一五六七

【新入会員】(5月29日〜8月31日、敬称略)

正会員(入会期日順)

特攻殉国の碑保存会 震洋会

賛助会員(入会期日順)

松岡忠雄、松川清三朗、橋本光彦、大松茂男、松本茂、山下陽之助、市川 昇、米 正七、矢島康利、村山純一

本年度会費納入のお願い

会員の皆様は本年度会費をお願い致したく今回の機関誌発送と一緒に振込用紙を同封させて頂きました。

何分よろしくお願ひ申し上げます。



東京都世田谷区の特攻平和観音堂